

住宅型有料老人ホームごんの里 ~土壁湿式工法~

法人名：株式会社Lily's 所在地：愛知県半田市 利用開始年月：2015年9月



住宅型有料老人ホーム玄関



駐車場からデイサービスを見る



居室から小屋組みを見る

事業概要

- 住宅型有料老人ホーム：18人
入居条件：自立・要支援1～要介護5の方
- デイサービス：9人

建築概要

階数	平屋、一部地上2階建て
地域制限	その他の地域
建築物の防・耐火上の要件	その他の建築物
敷地面積	1,014.00㎡
建築面積	579.30㎡
延床面積	619.05㎡
構造種別	木造（軸組・湿式工法）
設計	株式会社風・ジョインウッド
施工	株式会社風
工事工期	2014年10月～2015年7月

木造施設としての工夫

1. 吹き抜けの小屋組み



リビングから小屋組みを見る

施設は、木造軸組土壁湿式工法平屋建ての建物である。リビングから視線を上に向けて、屋根裏のダイナミックな小屋組みを見ることが出来る。
土、木材の調達、着工の約10ヶ月前から準備をして、国産のヒノキ、スギ、マツを500本以上使用している。

2. 指針に基づく設備の設置



廊下から小屋組みを見る

スプリンクラー設備、火災報知器、案内板などを設置することにより「その他の建築物」としている（有料老人ホーム設置運営標準指導指針6（2））。高い天井に消火設備を設置するため、消防との調整も行われている。

3. 土壁湿式工法による快適な暮らし



下地となる竹木舞と荒壁

荒壁は、芯には竹と藁縄で組んだ下地を使用している。さらに、中塗り、上塗りをかけ、着工から1年間程度で概ね完成した。

小屋裏の吹き抜け部分まで土壁とすることにより、表面の珪藻土とともに室内の温度調節、空気浄化をし、快適な環境をつくっている。また、上から空気が抜ける構造、左右に設けられた窓によって風が抜けて、夏季も快適に過ごすことが出来る。



デイサービスリビング

施設概要

お年寄りが元気に過ごせるよう、化学的なものを使わず、国産無垢材、土壁、いぶし瓦、柿渋塗料といった自然素材にこだわって建てられた有料老人ホームである。

木造・木質化の特徴

床



床一面に超仕上げをかけたヒノキ無垢材18mmを張っている。水廻りは、一部上から透明なシートを貼るなど工夫して利用している。ヒノキの水はけの良さなど木の特性を、設計者と運営者が頻繁に情報共有することで、トイレも意識的に水拭き掃除のみとしている。

手洗いスペース



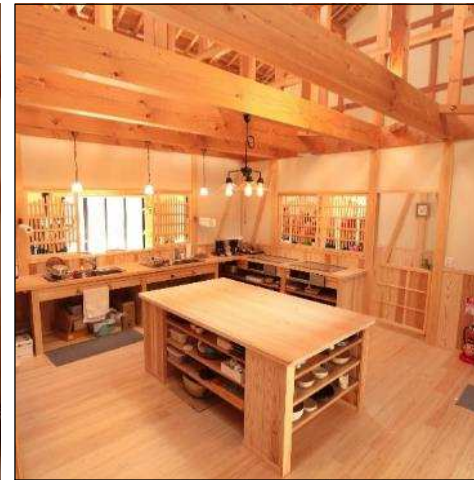
廊下の脇にある、仕切りのない手洗いスペースは、床や壁も廊下と同じように木質化されている。

居室



表面にあらわされた構造体に加えて、床、腰壁、建具を木質化し、木に囲まれた居室空間となっている。

キッチン



老人ホームの中央に位置するキッチンは、木格子によって、仕切りつつ、スタッフが入居者を見守りやすい環境をつくる。

浴室



壁の上層部、浴槽、桶など、浴室空間においても積極的に木質化している。

木造化によるメリット

年月を追うごとに、劣化ではなく、色合いなど味の出るところが自然素材の特徴であり、魅力である。そういった木造の特性を活かすため、設計者と運営者が時間をかけてコミュニケーションを取り、掃除方法といった情報共有をすることにより、施設を綺麗に保っている。

施設という先入観を持たずに、基本は住宅と同じ視点で考えられており、家のような温かみのある空間は、利用者だけでなく、見学者からも評判が良い。スタッフ募集時には、施設の写真を見て、働きたいと来てくれる方も多い。

施設写真・図面集



中庭



老人ホーム玄関



トイレの戸は、障子を貼った木製折れ戸



リビングからキッチンを見る



よりあいの森 ~避難安全検証法による内装制限回避~

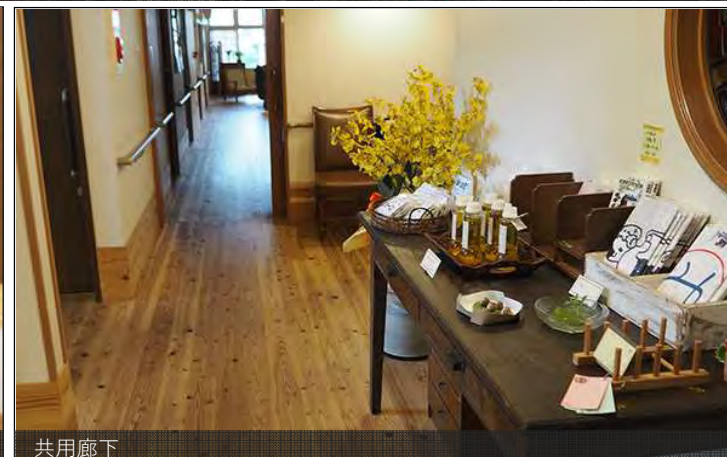
法人名：社会福祉法人福岡ひかり福祉会 所在地：福岡県福岡市 開設年月：2015年3月



入口から施設全体を見る



玄関



共用廊下

事業概要

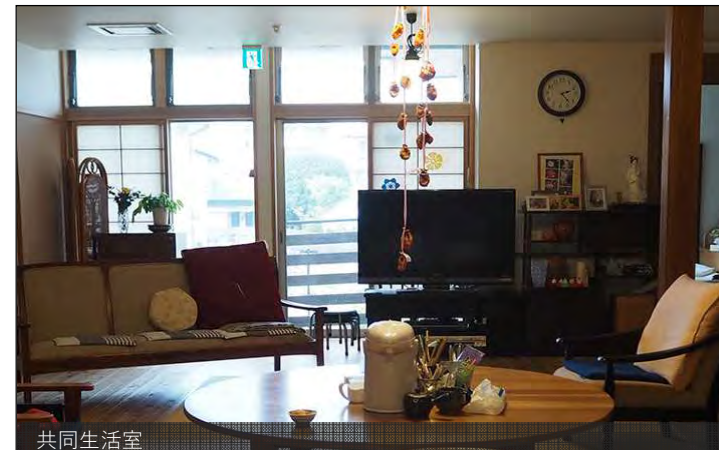
- 地域密着型特別養護老人ホーム：26人
- ショートステイ（短期入所生活介護）：2人
- 古民家カフェ

建築概要

階数	地上2階建て
地域制限	その他の地域
建築物の防・耐火上の要件	準耐火建築物
敷地面積	1,221㎡
建築面積	551㎡
延床面積	910㎡
構造種別	木造（軸組工法）
設計	株式会社風土計画
施工	山口工務店
工事工期	2014年8月～2015年3月

木造施設としての工夫

1. 被覆型の準耐火建築物



共同生活室

主要構造部を準耐火構造とすることにより、2階建て準耐火建築物を実現している。

室内に現れる柱は、木材の外側をせっこうボードで被覆し、仕上げに木のボードを貼っている。建物外周の柱も防火被覆して、壁体内に納めている。

2. 避難安全検証法による内装制限回避と近隣連携体制



近隣軒編についてのワークショップ風景

内装制限の適用を除外するため、第129条「避難安全検証法」に基づく避難シミュレーションを行っている。避難時における避難体制（職員の確保）を整備した上で、近隣住民に協力を要請している。近隣住民宅に火災時の緊急通報装置の設置により非常時における近隣住民との連携体制を構築した。

3. 敷地形状に合わせた施工計画



敷地全体

敷地が狭く、さらに敷地入口部分にある既存建築物を残す計画であるため、大型の重機を用いることが難しい。木造は大型の重機を必要としないため、施工面からも有意となっている。

4. 安心をもたらす床構造



廊下の先に広がる共同生活室

上階の音は下階に伝わりやすいため、お年寄りが転倒する音が聞こえ、夜間などは下の階の職員が迅速に駆け付けることが出来る。また、夜勤時は上下の階に1人しか職員がいないため、孤独を感じやすいが、音が伝わることで「一人ではない」という安心感にも繋がっている。

施設概要

社会福祉法人福岡ひかり福祉会は、利用者の重度化に伴い、住まいの整備が急務の課題となり、在宅での生活が困難となった人に対する住まいとして特別養護老人ホームの整備を行っている。

保健福祉局からの地域連携防災避難体制づくりの要望と、消防局からの防火性能と避難安全検証法による検証の2つの要求をクリアし、福岡市内で第一号となる二階建て木造準耐火建築物の特養となっている。

木造・木質化の特徴

景観の調和



既存の敷地の中に溶け込むように、既存建築物に高さを合わせて設計している。

既存木造建築物の活用



敷地全体に広がっていた木造民家の一部を残し、カフェとして活用している。

柱による空間の分節



軸組工法による柱が、空間をゆるやかに分節している。ひとつの部屋で複数の活動を行うことができる。

空調機が目隠し



床下に設置された空調機は、壁掛けエアコンを床下に噴き出して空気床下冷暖房としており、効果を実感する声が聞かれる。

畳の床に座る



床座により体勢を横にすると、いった豊かな姿勢をとること、車いすに乗ることが出来ない人も這って移動することが出来る。

杉材のフローリング



床のメンテナンスは植物系塗料の塗布のみとしている。傷や素足で使う事による汚れも「味」と考えている。

木造化によるメリット

特殊な敷地形状を踏まえた施工の容易さや、建設費の面からも木造を採用している。既存木造建築物の一部を残して古民家カフェとして活用するなど、新旧の木造建築物が敷地の中でうまく溶け込んでいる。

認知症の利用者も落ち着いた生活をしており、木を使った環境がケアの軽減化にもつながっている。

施設写真・図面集



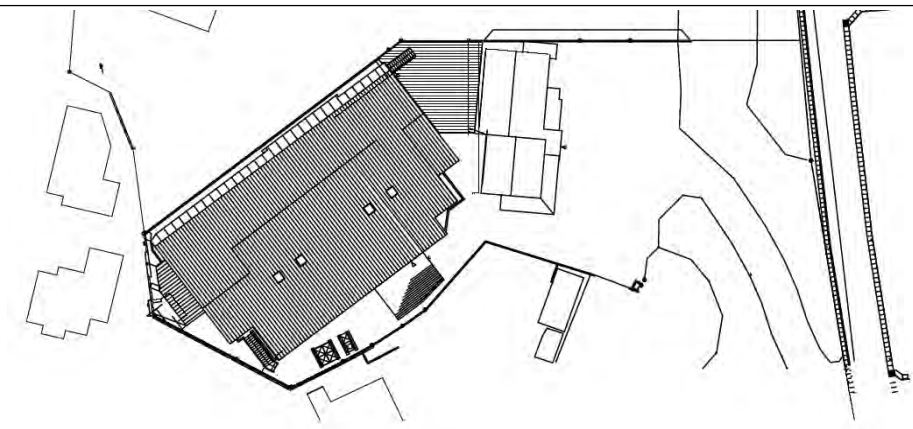
よりあいの森 (左) と既存木造建築物 (右)



よりあいの森のウッドデッキは、古民家カフェと連続した設計となっている



ウッドデッキ空間は催しの場としても活用されている



特養・カフェ配置図



特養 1階平面図



なごみの里ななせ ~分棟化による耐火性能の確保~

法人名：社会福祉法人山陽福祉会 所在地：山口県山陽小野田市 開設年月：2018年3月



施設全体を見る



通所棟から渡り廊下を見る



入居棟から渡り廊下を見る

事業概要

- 地域密着型特別養護老人ホーム：29床【A】
- ショートステイ(短期入所生活介護)：10床【A】
- 児童発達支援：10人【B】
- 放課後等デイサービス：10人【B】
- 多目的ホール【B】

建築概要

階数	【A】地上2階建て【B】平屋
地域制限	その他の地域
建築物の防・耐火上の要件	【A】耐火建築物【B】準耐火建築物
敷地面積	5,441.01㎡
建築面積	1,911.11㎡
延床面積	【A】1,643.4㎡【B】272.21㎡
	計 1,915.61㎡
構造種別	木造(軸組工法)
設計	大久手計画工房
施工	シマダ株式会社
工事工期	2017年6月~2018年2月

木造施設としての工夫

1. 分棟化により構造種別を分ける



入居棟2階から通所棟を見る

特養、ショートからなる入居棟と、児童発達支援、放課後等デイサービス、多目的ホールからなる通所棟に建物を分けている。分棟化することにより、入居棟は耐火建築物、通所棟は準耐火建築物と構造を分けることが可能となっている。

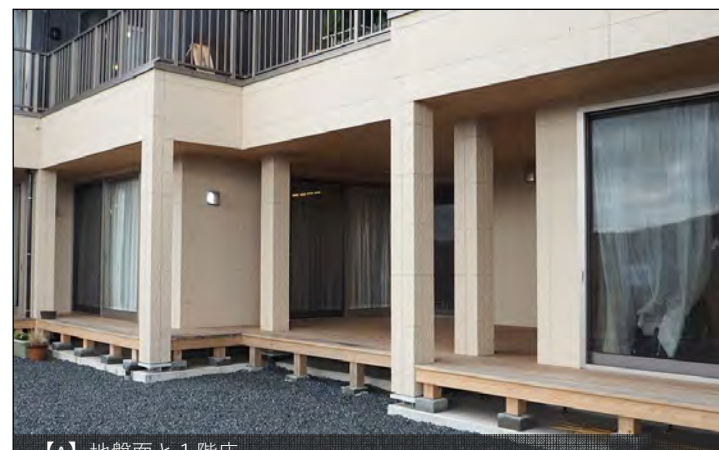
2. 施工の短縮



【A】特別養護老人ホームを見る

入居棟(耐火建築物)は、工期が短縮され、補助金の申請にも対応しやすい木造を選択している。建物を耐火建築物と準耐火建築物に分けることにより、竣工日時が決まっている入居棟を先行的に工事する事が可能となっている。

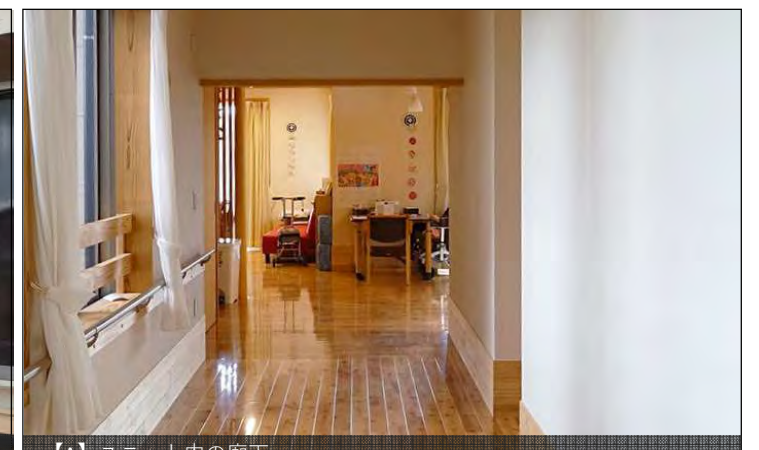
3. 地盤面と1階床高さ



【A】地盤面と1階床

建築基準法施行令第22条より、最下階の床の高さ及び防湿方法は原則として第22条一号、第22条二号に定めるところとなるが、ここでは床下をコンクリートたたき仕様とし、建物周辺部を透過性のある素材とすることで通気を十分に取っている。

4. 二重床によるメリット



【A】ユニット内の廊下

二重床とすることにより、転倒時のリスクの軽減を図っている。2階の音が1階まで伝わることもあるが生活上の問題とはなっていない。

その一方で、2階部分の床にコンクリートのスラブが敷かれていないため、2階で水漏れを起こすと1階まで影響を及ぼすこともあった。

施設概要

山陽新幹線の厚狭駅から徒歩10分の場所にある地域密着型特別養護老人ホームである。同一市内に定員80人の既存の特別養護老人ホームを運営している社会福祉法人が母体となっている。

施設は、特別養護老人ホーム、ショートステイのある2階建ての入居棟と、児童発達支援、放課後等デイサービス、多目的ホールのある平屋建ての通所棟に分かれており、2棟は渡り廊下と中庭でつながっている。

木造・木質化の特徴

屋外渡り廊下



緩やかな曲線を描く渡り廊下。天井には、杉板を貼っている。

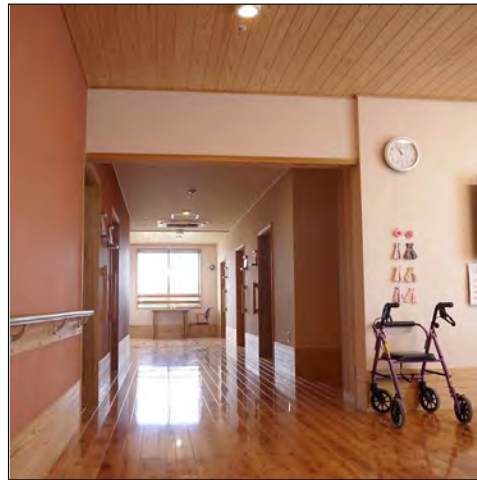
【A】天井



入居棟の天井は、共用部分は木材、廊下はクロスと仕様を使い分けることによって、空間にメリハリを持たせている。スプリンクラーの設備と排煙設備の設置により、内装制限を回避でき、クロスだけでなく木材を使用可能としている。



【A】床



床面のワックス掛けは6か月に1回（年2回）実施している。新建材を利用している既存施設と同じ頻度である。

【B】個室



心を落ち着けるよう、木で囲まれた小さな空間を設けている。天井を準不燃材料とすることで、壁一面を板張りとしている。

【B】和室



通所棟は、天井を設けず、建物を支える天然木が見える設計としている。

木造化によるメリット

分棟化により、入居棟は耐火建築物、通所棟は準耐火建築物としている。

通所棟は、雄大な梁を見せる意匠となっている。入居棟は、2ユニット×2階建てとし、職員室をはさんで2つのユニットが連結している。各ユニットには、リビングダイニングの他に小さな共用部分があり、内装材の仕様に変化を加える事によって、空間の領域分けを行っている。また、外装材、内装材、設備機器等はできるだけ住宅レベルの物品を用いることによりコストダウンを図っている。

木造を選択するにあたり、税金や減価償却期間を考慮した際の優位性も決めての1つとなった。

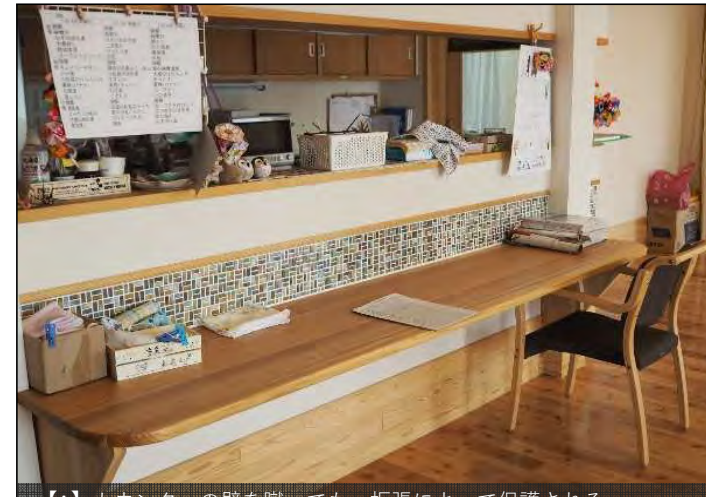
施設写真・図面集



【A】 壁紙やタイルを用いることで清潔感がある



入居棟入口



【A】 カウンターの壁を蹴っても、板張によって保護される



【B】 多目的ホール天井

